

1. 生活者要件の整理
2. 小牧市の強み・弱みの整理
3. 将来ビジョンの検討

▶ 4. 具体施策の検討

議題主旨：将来ビジョンに基づく施策の案出しを行う

4. 将来ビジョンに基づく施策の検討

これまでの議論を踏まえて、以下のフレームワークを用いて、本戦略会議内で有識者主導の施策案出しを行う

将来ビジョンに基づく問い	現状	施設拡充等の施策案	コミュニケーション施策案
「職・住・育」が各々抱える課題を解決するには	<ul style="list-style-type: none">・ ライフステージに適合した住居が不足している・ 待機児童が生じている・ 子育て支援が充実しており市民のイメージはいいが、近隣生活者には伝わっていない・ 刑法犯罪認知件数や車の交通量が多く、安全・安心のイメージが持たれにくい		
「職・住・育」が三位一体となった環境を共創するには	<ul style="list-style-type: none">・ 雇用と育児のトレードオフが起こり、雇用施策や育児施策のポテンシャルが十分に活かしていない		

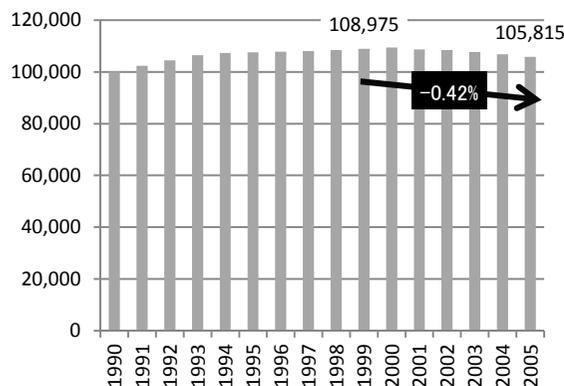
(参考事例①) 千葉県流山市 (1/2)

共働き子育て夫婦に特化した、育児環境施策により、30代～40代の子育て世代の大幅な増加を実現した

課題

- ・ 人口減少
- ・ 少子高齢化
 - 生産年齢人口の減少

生産年齢人口の推移(1990年-2005年)



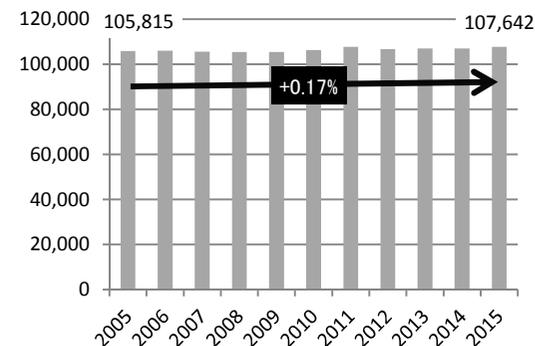
主な取組みとその特徴

- ・ 共働き子育て夫婦「DEWKs*」へのターゲット絞込み
- ・ 保育所問題への重点的な取組み
 - 認可保育所の定員数拡充
1,669人(2009年)→2,794人(2013年)
 - 主要駅から各保育所への送迎バス「駅前送迎保育ステーション」を新設
- ・ 施策と連動したPR活動
 - キャッチコピー「母になるなら、流山市。」「父になるなら、流山市。」
 - 市の資源(自然)を活かしたイベント「森のマルシェ」「森のナイトカフェ」等の継続的な実施
- ・ 上記施策を駆動する自治体初の「マーケティング課」の設立

結果

- ・ 人口総数の増加
 - 15.3万人(2005年)→16.9万人(2013年)
- ・ 10歳未満の子供と、30代～40代の子育て世代の大幅な増加

生産年齢人口の推移(2005年-2015)



* Double Employed With Kids

資料: 千葉県(2012)、「人口増加の秘密～シティセールスプランに基づくプロモーション活動～(流山市)」(<https://www.pref.chiba.lg.jp/shichou/gyousei/gyouseikaikaku/nagareyama2.html>)
ダイヤモンド・オンライン(2013)、「人口減少時代に、人口を10%も増やし、いきいきと若返ったまち」(<http://diamond.jp/articles/-/45759>)

(参考事例①) 千葉県流山市 (2/2)

東京の主要駅(銀座、表参道、六本木など)に、流山市外や都内からの移住を促す大型ポスターを掲出した

母になるなら、流山市。

子育てにも通勤にも快適な街に住みたくて、
新宿区から越してきた仲宗根さんファミリー。



父になるなら、流山市。

自然の中でのびのびと子育てしたくて、
横浜市から越してきた片崎さんファミリー。



に、困ったときに助けてくれる、近所のおじいちゃんおばあちゃん存在が本当に心強い。また、明るくて人のために動けるママが多いので、一緒に街を盛り上げていきたいです。
仲宗根 えり子さん (会社経営 30歳)



子育てに積極的な、若いお父さんが集まる街へ。

子育てで世代の夫婦が、ますます増えている流山市。最近、市内に住むイクメンのコミュニティも盛んだとか。緑あふれる街で、ゆとりを持ってわが子の成長を楽しみたいお父さん、イクメンの街、流山市へおいでください。

流山の街全体がアットホーム。居心地のよさを実感しています。

前に住んでいた横浜より緑や公園が多く、空気もきれいな気がします。休日に子どもと遊びに行く場所にも困りません。また街の雰囲気が見えやすく、お祭りや花火大会など地域のイベントにも参加するようになりました。他のお父さん方と、すぐに仲よくなったのも大きいです。

片崎 大輔さん (会社員 38歳)

資料: 千葉県(2012)、「人口増加の秘密～シティセールスプランに基づくプロモーション活動～(流山市)」(<https://www.pref.chiba.lg.jp/shichou/gyousei/gyouseikaikaku/nagareyama2.html>)
流山市役所、「流山市PRサイト」(<http://www.nagareyama-city.jp/>)

(参考事例②) フランスにおける育児・就労の両立支援施策

子供の人数が多い程手厚い各種優遇制度や、育児と就労の両立を支援する仕組みにより、出生率がV字回復した

課題

- ・ 出生率の低下
 - 1980年代、合計特殊出生率が人口置換水準の2.07を割り込む
 - 1990年代、合計特殊出生率が1.66にまで低下

主な取り組み

資金面での援助

- ・ 第2子以降、子供の数が多い家庭ほど多額の家族手当を支給
- ・ 仕事と子育ての両立を支援する為、多様な働き方に対応する育児休業手当
 - 勤務時間0%: 約67,000円/月
 - 勤務時間50%: 約51,000円/月
 - 勤務時間50-80%: 約39,000円/月
- ・ 子供の数が多いほど手厚い税制優遇
(所得税の課される対象=世帯所得÷家族人員数、子供2人目までは0.5人分、3人目からはそれぞれ1人分として家族人員とする)

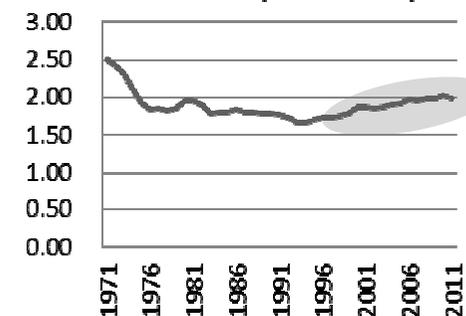
資金以外による援助

- ・ 有資格者は自宅で最高3人の子供を預かることができる「認定保育ママ」の資格を整備(1977年)
- ・ 「『認定保育ママ』を雇用する家庭に対する援助」により同制度の利用を促進(1992年)

結果

- ・ 出生率のV字回復
 - 2011年には合計特殊出生率が2.00に回復

合計特殊出生率(1971-2011年)*



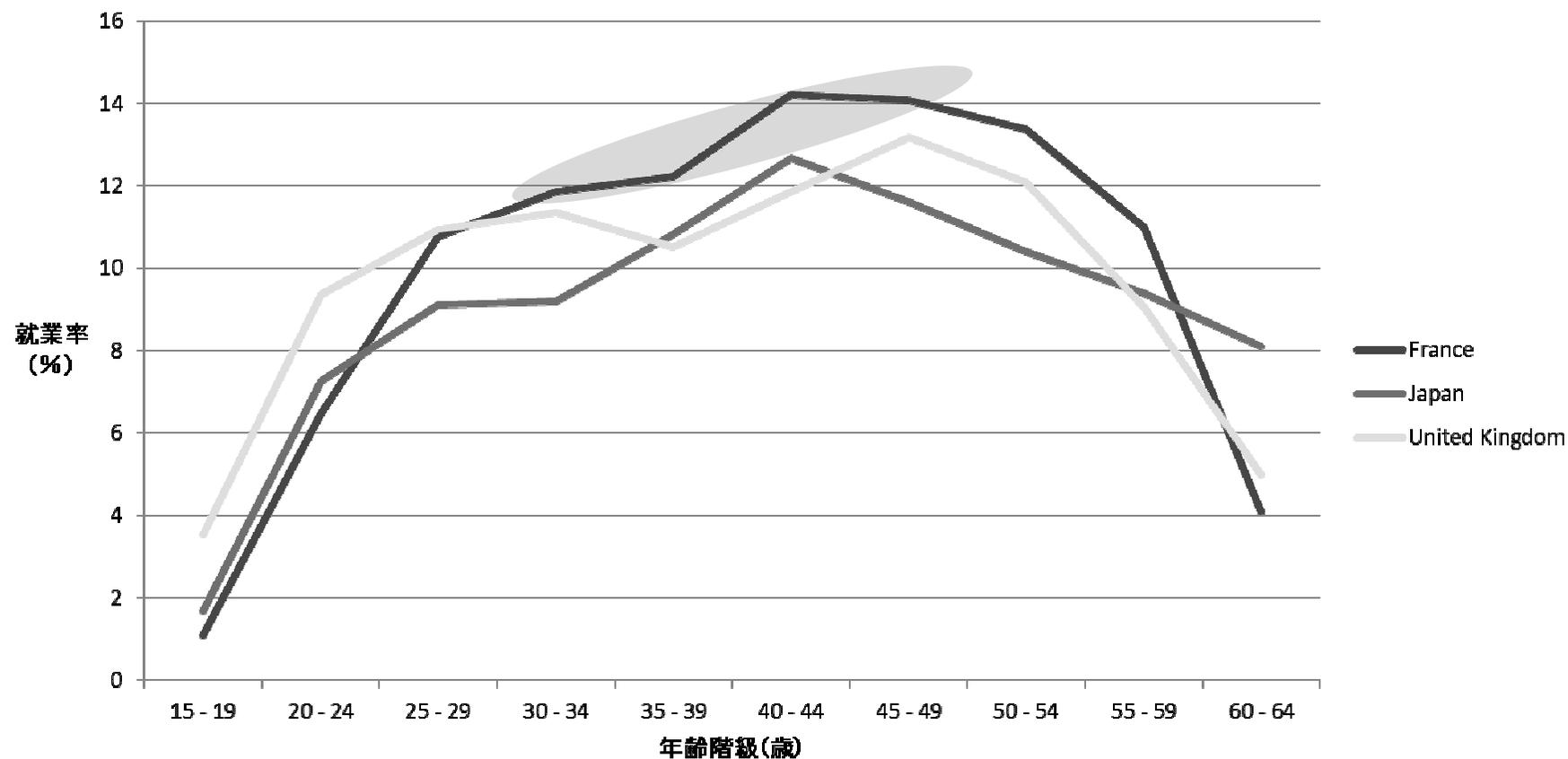
- ・ 女性労働力率の上昇
 - 出産・育児期においても女性が退職することなく、育児休暇の取得や保育所の活用により就業を継続

* 内閣府(2014)、「5 諸外国との国際比較: 諸外国における出生率の状況」を基に作成
 資料: 内閣府経済社会総合研究所(2005)、「フランスの家庭生活調査 —フランスの出生率はなぜ高いのか—」
 日本労働研究機構欧州事務所(2003)、「フランスの家族政策、両立支援政策及び出生率上昇の背景と要因(特別レポート Vol.5)」

(参考事例②) フランスの女性労働力率(2/2)

他国と比較して、出産・育児期においても女性の退職が少なく、諸制度の活用により就業を継続できている

フランス・日本・英国の年齢階級別女性の就業率(2014年)



資料: OECD, 「Labour market Statistics」(<http://www.oecd-ilibrary.org/>)